

I 自己評価

1 学校教育目標	1 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 2 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 3 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理・安全指導の2項目において、昨年度に比べて評価が若干上がっている。昨年度、8割前後が「あてはまる」との回答であり、決して低値ではない状態ではあるものの、一昨年度から5.8～8.4%減少していたことを考慮すると、「安全・健康」に対する生徒や保護者への情報提供にもう少し工夫をすることも必要であると考え。 学校行事等において、「学習環境の面」「掃除が行き届いて校内がきれい」の両項目で、昨年度に続いて低値を示している。「学習環境」については、教室にエアコンが設置されていない、蜂の侵入やチビクロバネキノコバエの発生等、保健厚生部として活動による改善が難しい要素による評価であると予想する。また「清掃活動」については、生徒・職員の意識向上に継続して取り組む必要がある。」 昨年度から設定された学校独自項目「生徒の健康管理に対する意識の向上に努めている」の部分では、今年度も生徒・保護者ともに8割強の「あてはまる」回答を得た。今後のさらなる充実を図りたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 保健衛生・福利厚生 1 健康診断・予防接種の意義への理解と、円滑な実践 2 健康的で快適な職場づくりのための、相互理解と厚生活動の推進 3 学校全体で取り組む、正しい性モラルの向上 4 校内販売の健康的な展開と、生徒自身の健康管理へのアプローチ ◇ 環境整備・防災対策 1 環境教育の充実と、生徒・職員全体で取り組む積極的な環境美化活動 2 防災・危機管理を核に据えた防災組織の改善と安全教育の一層の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇ 保健衛生・福利厚生 1 健康管理センター・教育相談センターとしての保健衛生活動を充実させる。 2 職員間の親睦を深め、快適な職場作りに努力する。 3 学校全体で取り組む、性非行の撲滅と正しい性へのアプローチを行う。 4 生徒・職員の健康とニーズに配慮した校内販売を推進する ◇ 環境整備・防災対策 1 気持ちのよい学校生活環境づくりのため、職員・生徒が協力し環境美化活動に積極的に取り組み、校内環境の向上を図る。 2 防災・危機管理に関する啓発により事故の未然防止、災害の二次被害防止を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 健康診断・環境調査・職員健康アンケート等の計画的実施、結果報告と保健衛生活動の充実。 (2) 生徒指導等との連携による、性モラルに関する啓発。 (3) 美化活動の推進、環境美化委員をはじめとした生徒への啓発。 (4) 非常変災時の対応マニュアルとその運用の徹底。 (5) 安全点検の効率の実践と、迅速な対応。 (6) 校内販売に関する計画と、衛生管理の充実。	(1) 健康診断(4～6月)、環境調査(各月)、保健講話(睡眠と健康:6月)、職員健康アンケート(7月)、学校保健安全委員会(9月・2月)、学校安全衛生委員会(拡大:2月)の実施。 (2) 性に関する実態把握・個別相談(随時)。 (3) ごみ分別・清掃活動の充実(毎日)。 (4) 命を守る訓練(5月・9月・12月)、職員救急救命講習(9月・11月)、非常変災時対応(随時) (5) 校内安全点検(各月)。 (6) 校内販売計画の掲示・販売ブースの見回り(毎月・随時)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 各種検診・環境調査等の計画的実施、結果報告 性に関する指導 非常変災時の適切な対応 環境美化活動の活性化 校内販売の適正な運営 	① 計画的実践 ② 保健室（養護教諭）による個別相談 ③ 対応の迅速さ、適切さ ④ 校内美化の進捗 ⑤ 計画書の掲示とブースの見回り	(A) B C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○ 健康診断・環境調査は計画通り実施できた。結果を生徒本人への通知や学校保健安全委員会への報告を通して、活用・改善を図ることができた。また、養護教諭による個別相談を進め、生徒の性に関する相談・指導を進めることができた。 ○ 自然災害に係る非常変災時の動きについて、保護者への引き渡し方法・帰着確認の方法等、生徒や保護者、また職員の周知・徹底が図られ、スムーズな対応ができています。 ▲ 自然災害による非常変災とは別に「Jアラート」発令時における対応について、国や自治体も現在最良な対応策を模索・検討を継続しており、学校としても適切な動きについて熟考を余儀なくされている。試行的に命を守る訓練を実施したが、スムーズな対応ができた。しかし、想定できない状況があることを考慮し、様々な対応策を検討・改善すべきであり、具体的な流れを徹底し、生徒・保護者・職員への周知を図る。 ▲ 昨年度、環境美化活動への配慮の希薄さを懸念した。清掃活動においても、職員・生徒ともに清掃の徹底を意図したが、時として浸透しきれていない場面を見かけることがある。 ○ 校内販売業者との連絡を密にするとともに、販売計画の掲示をして、生徒・職員への周知を図れた。	
12 後期及び来年度に向けての改善方策案（学校評価アンケートを踏まえて） 防災に関する取り組みは、自然災害による非常変災に関して職員・生徒・保護者の連携もスムーズに行えるようになっているが、今年度に入り新たに「Jアラート」を受けての適切な対策の検討を余儀なくされている。今後、このように、防災に対する取組はさらに増えることが考えられるため、保健厚生部の分掌の中の担当として防災の係を置くのではなく、防災に係るひとつの分掌を組織し、各種事象に対して徹底して取組めるように進めることを検討できるとよいと考える。 環境美化活動に関しては、毎日の清掃活動を生徒自身が行っているにもかかわらず、その評価は生徒の中で毎年低値を示している状況が続き、校内の環境美化への取組が浸透しきれていない。掃除時間の保健厚生部職員の巡回と指導をさらに進め、学校全体での美化に関する意識高揚を図っていく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

【意見・要望・評価等】 ・備蓄は、幼稚園や大学等では、少しは対応できているが、3日分の備蓄はないので参考にしたい。 ・Jアラートの訓練は今後も毎年実施方法を検討しながら行う必要がある。
